

Lyric

Colors

リリック カラーズ

vol.16

2025
6.25発行
TAKE
FREE

あなたの毎日に
芸術文化の
いろどりを！



特集

リリック・ジュニア・ミュージカル公演
君のとなりに名探偵 ～もしくは見えないお友達～

ARK BRASS スター・ウォーズ組曲
～ARK BRASS with 松井秀太郎

スペシャルインタビュー

長岡市出身落語家
春風亭 鯉づむ

注目公演

ザ・グレン・ミラーオーケストラ
JAPAN TOUR 2025
野村万作・野村萬斎 狂言公演

公益財団法人 長岡市芸術文化振興財団 広報誌

9/7日
長岡市立劇場
大ホール
開演/14:00

ザ・グレン・ミラーオーケストラ JAPAN TOUR 2025

全席指定 8,800円(当日500円増) ※未就学児入場不可

チケット好評発売中

70年以上色褪せず 世界中の人々が愛するあの名曲を――

グレン・ミラーの意思や演奏スタイルを脈々と受け継いできた、世界的人気を誇るビッグバンド“ザ・グレン・ミラーオーケストラ”による長岡公演が決定しました！

54回目となる来日公演は、テナーサクソ奏者でヴォーカリストのエリック・スタブノウが熟練のバンドメンバー率い、ジュニー・スウィッシュのヴォーカルで華を添えます。その洗練されたサウンドとエネルギッシュなステージは、観客をノスタルジックな世界へ誘うことでしょう。ぜひ世代を超えて愛されている名曲を生演奏でお楽しみください！

Alton Glenn Miller
オルトン・グレン・ミラー
(1904年-1944年)

アイオワ州クラリダ生まれ。アメリカのジャズミュージシャン。ベニー・グッドマンと共に“スウィングの王様”と称され、トロンボーンを優雅に吹きこなし、30年代初頭～40年代前半のジャズシーンに旋風を巻き起こした人物。優れた作編曲家でもあり、名曲を数多く残している。



THE GLENN MILLER
ORCHESTRA

ザ・グレン・ミラーオーケストラ
グレン・ミラーによって結成。ミラーが作り出した(5サクソ、4トロンペット、4トロンボーン、3リズム)の編成や、サクソセクションをクラリネットがリードする演奏スタイルは、ビッグバンドの典型と言われ、ミラーが最初に作り出したオリジナルスタイル。ザ・グレン・ミラーオーケストラはその歴史を忠実に受け継ぎ、楽団は世代交代をしながら活動を続けている。

誰もが一度は耳にしたことがあるグレン・ミラーの数々の名曲は、今でも映画やCMで使用されています。

【演奏予定曲目】

- ◆ムーンライト・セレナーデ
- ◆真珠の首飾り ◆茶色の小瓶
- ◆イン・ザ・ムード
- ◆チャタスーガ・チュー・チュー ほか



9/17水
リリックホール
シアター
開演/19:00

野村万作・野村萬斎 狂言公演

全席指定5,500円 [U-25]2,500円 ※未就学児入場不可

チケット好評発売中

650年以上にわたり、
脈々と受け継がれてきた日本古来の喜劇――
今年も毎年好評の狂言公演を開催します。また、幅広い層に狂言を届けるため、国内外での公演をはじめ、現代劇や映画などで多岐に渡り活躍する野村萬斎による解説もお楽しみください。

◆解説 野村萬斎

小舞「楽阿弥」野村 裕基
地謡 高野和憲
中村修一
飯田 豪

「鐘の音」
かね ね
太郎冠者 野村 万作
主 福田成生
後見 飯田 豪

「六人僧」
ろくにん せう
参詣人 野村 萬斎
参詣人 石田 幸雄
後見 飯田 豪

参詣人 福田 博治
女 中村 修一
女 内藤 連
尼 高野 和憲
後見 野村 裕基

参詣人 石田 幸雄
参詣人 福田 博治
参詣人 中村 修一
参詣人 内藤 連
参詣人 高野 和憲
参詣人 野村 裕基

ある男が二人の仲間と共に諸國参詣の旅に出る。仏に帰依する以上、決して腹を立てないと誓いを立てた男だが、途中投入した隙に、仲間たちに髪を剃られてしまう。誓いのために怒れない男は先に帰郷し、仲間の妻たちに男たちが溺死したと告げ、出家して用うよう勧める。さらに戻ってきた仲間たちにも妻たちが死んだと伝え……
登場人物や場面の展開が多く、演劇的な要素が強い作品です。落語「大山詣り」の元になった曲でもあります。

主人は息子の元服に、黄金作り
の太刀を差させてやろうと考え、
金の値段を聞きに太郎冠者を鎌倉
へ遣わす。ところが、「金の値」を、寺
の鐘の音と思ひ込んだ太郎冠者。
寺々を回って帰ると、主人の前
で鐘の音を説明するのだが……
寿福寺 円覚寺 極楽寺 建長寺
の寺々の鐘の音を擬音で説明した
り、主人の怒りを解くため、鐘の音
の子細を語り舞うのが見どころの
狂言です。演者自身の声で鐘の音
を表現する、狂言独自の趣向をお
楽しみ下さい。

《あらすじ》

[表紙]
リリック・ジュニア・ミュージカルの子どもたち。詳しくは2・3
ページの特集をご覧ください。

Lyric Colors vol.16
(2025年6月25日発行)

発行(公財)長岡市芸術文化振興財団
〒940-2108 新潟県長岡市千秋3丁目1356番地6
TEL.0258-29-7715 <https://www.nagaoka-caf.or.jp/>



たぐいま稽古中!

2月から稽古がスタートしました。ミュージカル出演者、そしてそれを支えるサポーターのコメントをご紹介します。

最初はちゃんとできるのか、仲間とコミュニケーションがとれるのかなど不安もありました。でも優しい仲間と歌やダンスの練習をしながら少しずつうまくできるようになってきました。今回、幽霊役を演じます。長岡空襲に関する物語なのでいろんな資料を見て、私なりに気持ちを伝えられるよう練習をしていたら、先生に「表情が良くなったね」とほめられました。今後も気持ちをこめて練習や歌をがんばっていきます。8月の公演日には役者全員の色んな表情をぜひ見に来てください。



ひろかわ あいり
廣川 愛莉
(入団1年目 小学5年生)

今回のミュージカルは、僕にとっては初めての大舞台になります。なので、最初はとても緊張していました。しかし、ほかの学校の人達と役の設定を考えたりしていくうちに、だんだん楽しくなってきました。僕が演じる宮崎隼人は、数々の難事件を解決している、小学6年生の探偵団の一人です。僕が演じる時、「隼人だったらどう感じるか、どう思うか」と、想像しながら演じています。なかなか難しいことですが、頑張っています。ぜひ、僕たちが作り上げたミュージカルを、観に来てください!



きむら ことき
木村 権也
(入団2年目 小学6年生)

始めたばかりの頃は友達が少なく不安や緊張もあったけど、ミュージカルを通して個性豊かな仲間とアイデアを出し合ったり、作り上げる楽しさを学ぶことができました。今回の舞台は現代っ子的な名探偵がダンスクラブの抱えているトラブルを解決していくお話です! 私の演じる「真央」は、負けず嫌いでちょっと気持ちがひねくれている面倒臭い子です。物語が進んで真央の心が変化していくところを一生懸命演じたいです。役者一同真剣に楽しく演じる姿を見ていただくと嬉しいです!



おほのら せいな
大平 季奈
(入団6年目 中学3年生)

サポーターもがんばっています!

おくむら まりこ
奥村 万利子 衣装づくりで楽しくサポート中!



息子が小学校4年生の時から約7年間サポートをしています。衣装や小道具作りが主で、作業が無い時はダンスや歌の練習のサポートや見守りを。衣装作りでは、できるだけ簡単に縫えて・脱ぎ着しやすく・動きやすく・客席からなんの役か分かりやすく・演じている子どもたちのテンションが上がるものになるように、ということ毎回サポートスタッフ仲間と楽しく考えながら形にしています。練習1回ごとに物語の世界観に厚みが出てきつつ、子どもたちの心の距離も縮まっていく様子を間近で見られることがサポーターの醍醐味です。

やました みゆゆ
山下 美冬 社会人1年目のOGです!

指導者ではなく子どもたちの隣で一緒に汗をかきながら稽古をサポートしています。子どもたちが講師のアドバイスをぐんぐん吸収して「演者」として目覚めていく様には、毎回感動させられます。稽古では子どもたちのダンスのサポートをすることが多く、今回の作品では、ダンスクラブのメンバー役の子どもたちと一緒に振り付けを考えました。作品冒頭のダンスシーンは思わず観客の皆さんも踊りたくなるようなノリノリなシーンなので、ぜひ子どもたちのパワフルなダンスに注目していただきたいです!

特集 リリック・ジュニア・ミュージカル公演

君のとなりに名探偵

～もしくは見えないお友達～

2004年にスタートした、リリック・ジュニア・ミュージカル。今年8月の公演に向け、現在小学3年生から高校3年生の34名が、心を合わせて稽古に取り組んでいます。

「君のとなりに名探偵」は、今回の公演のために書き下ろされた新作です! 脚本を手掛けた山谷典子さんと演出を務める坂口阿紀さんから、作品や長岡の子どもたちへの想いなど、お話を伺いました!



演出坂口

作品のみどころ

「長岡空襲」が物語に出てきます。知っているようで知らないことがたくさんある私たち。子どもたちには、この作品を通してもう一歩踏み込んで「生きていること」について考えて欲しいと思っています。そして、歌やダンスにそれぞれ思いを乗せ、お客さまに届けられるよう頑張ります!

脚本山谷

「未来」を考える
この作品は、子どもたちの未来を応援したいと思って産み出した物語です。そこで、過去に起こってしまった「戦争」に現代の子どもたちが向き合う場面を設定しました。物語をとおして「私たちの未来はどんな未来にしたい?」「子どもたちにどんな未来を残したい?」と皆さんが考えるきっかけになれば嬉しいです。

曲もダンスも楽しい!

デモテープが届き、我が家でテーマ曲を流していたら、小1の息子がいつの間にか熱唱するようになっていました(笑)。2月に長岡の稽古場にお邪魔しましたが、振り付けも楽しく、歌稽古では坂口さんの指導で子どもたちの声がかんたん伸びていく様子に感動しました。8月の本番には、もっともっと素敵になっていく子どもたちの姿をたくさんのお客様に観ていただきたいです。



◆演出
坂口 阿紀
さかぐち あき
株式会社オールスタッフ所属。様々なミュージカルの脚本・演出・歌唱指導に携わる。

演出坂口

長岡の子どもたちに感じる

子どもたちと関わるうえで、一人ひとりの個性を大切にしよう心がけています。自分の得意なこと、ワクワクすること...それがわかった瞬間の子どもたちの表情は大きく変わります。その瞬間を見逃さないよう、みんなのキラキラした姿を舞台上で存分に発揮できるように見守っています。

また、私はこのリリック・ジュニア・ミュージカルに20年間携わっています。毎年感じていることですが、長岡の子どもたちは「いざいざ!」というときに、積極的に前へ進む強さがあります。2月のオーディションでは全員がとても緊張していましたが、今では、初舞台となるメンバーに経験者が積極的に教えている、頼もしい姿が見られます。そんな子どもたちのチームワークも舞台から感じ取っていただければと思います。

脚本山谷

約15年前、劇団「文学座」所属俳優として、演劇ワークショップの指導にリリックホールへ訪れたことがあります。その時も今も、長岡の子どもたちはとても熱心で生き生きとしているのが印象的です。それは、子どもたちの居場所が主に学校と家庭の二つですが、長岡にはもう一つ、演劇の場があるからだと思います。演劇が子どもたちの拠り所となるということは、私自身の願いでもあるので、このような環境がある長岡はとても素晴らしいと思います。



◆脚本
山谷 典子
やまや のりこ
演劇集団Ring-Bong主宰・劇作家。文学座退団後、フリーで幅広く活動している。

リリック・ジュニア・ミュージカル公演

君のとなりに名探偵 ~もしくは見えないお友達~

8/11月祝

開場 13:30
開演 14:00

長岡リリックホール・シアター

好評発売中!

全席自由 1,000円 ※4歳から入場できます

あらすじ

とある小学校の放課後の体育館。ダンス部が練習をしていると突然の謎の停電。そこへ現れた子どもだけに見える白い服の子どもたち。彼らは何かを伝えるために現れたのだった。名探偵NKの面々はこの謎を解決できるのだろうか…。語り伝えてゆく戦争の記憶と明るい未来へ生きる子どもたちの物語。

脚本・作詞/山谷典子 音楽/吉田さとる 演出/坂口阿紀
イッツフォーリーズクリエイティブスタッフ/米谷美穂、中山圭、大浴ちひろ、鈴木彩子
長岡講師/小杉佐智子 稽古ピアニスト/遠山礼子、内山英美
音響協力/松田朋子(キャンピット) 美術・舞台監督/アートシーン
企画制作/土屋友紀子(オールスタッフ)

ARK BRASS

スター・ウォーズ組曲



~ARK BRASS with 松井秀太郎



日本のクラシック界における金管楽器のスーパープレイヤーが集結した“ARK BRASS”が長岡に初登場します。国内のトップオーケストラで活躍してきたメンバーに加え、日本中が注目する若き才能 ジャズ・トランペッター松井秀太郎とジャズ・ピアニスト 壺阪健登が、プラスの圧倒的な迫力溢れるステージを魅せてくれます。今回は、“ARK BRASS”そしてプラスアンサンプルの魅力をリーダー 佐藤友紀さんに教えていただきました。



サントリーホール ARKクラシックス(2021年10月/サントリーホール ブルーローズ) ©飯田耕治

Q. ARK BRASSを結成したきっかけ

僕が企画しているコンサート・シリーズで、ホルンの福川伸陽、トロンボーン青木昂と3人でコンサートをした時がすごくよかったので、このメンバーでアンサンブルをやりたくなったのが始まりです。そこに音楽性も人柄もよく知るテューバの次田心平に声をかけ、コアメンバーが決まりました。へ日本で最高の金管アンサンブルをつくりたいという想いをずっと持っていました。まさに理想的なコアメンバーが揃い、そこに更に毎回素晴らしいアソシエイトメンバーに加わってもらって、僕の思い描いていた最高のアンサンブルをつくることができました。曲により五重奏から十重奏まで様々な編成となるのが特徴でもあります。

Q. 金管アンサンプルの大きな魅力について

また、コアメンバー全員がフィリップ・ジョーンズ・プラス・アンサンブル(PJBE)の偉業に対して、リスペクトの気持ちがあり、PJBEのオーマージュ団体としてもスタートしました。大きな魅力としては一つ、まず一つは曲のジャンルが広いことです。ルネッサンスの作品からコンテンポラリーまではもちろんのこと、ジャズ、ロック、映画音楽まで様々なジャンルの曲を取り上げ

Q. ARK BRASSで挑戦したいこと

PJBEの最大の偉業は、金管アンサンブルのレパートリーを凄まじく拡大させたことだと思っています。民謡でもロックでも何でも、オリジナル作品まで、レパートリーを豊富にしてくれました。やっぱり彼らがいなかったら僕らもこんなにアンサンブルに取り組むことはなかったかもしれません。これまで、長年、彼らのレパートリーは多くの人が演奏し、影響を与えてきました。これからは、僕らのオリジナルの作品もどんどん増やしていきたい、PJBEの王道のレパートリーと組み合わせ、アンサンブルの可能性を広げていきたいと思っています。PJBEの偉業を称えながらも、それをさらに発展させたいということこそがオーマージュ団体として掲げている僕らの一つの大きな使命なのかなと思っています。

Q. 松井秀太郎さんについて

昨年のツアーでもゲストとして参加してもらいました松井秀太郎さんは才能の塊です。自由自在

に自分の中から湧き出てくる音楽がそのままトランペットを通して表現できる音楽家だと思えます。ジャズの世界で突っ走っている中で、クラシックのことも学ぼうという謙虚な姿勢も感じました。お互いの持っているものをぶつけ合いながら一緒に音楽を作りあげることが出来る関係というのが素晴らしいです。僕は、松井さんとは、ARK BRASSのメンバー同士と同じような感覚で音楽を作ることができています。それぞれがリスペクトし合っているけれど、でも決して自分を曲げることなく、お互いの音楽をぶつけ合うという僕らのスタイルにもぴったりの音楽家だと思えます。刺激を受けているいい関係です。



2024年11月/紀尾井ホール ©飯田耕治 ©ヒダキトモ

Q. 今回の公演の聴きどころ

聴きどころの一つとしては、「スター・ウォーズ組曲」。金管五重奏で、あの大曲を表現するということは、とても難しいことですが、とても楽しみにしています。何より僕らはスター・ウォーズが大好きですから、この曲にかける思いというのは強いんです!!

もうひとつは、松井秀太郎さんの「コラポレーション」だと思います。僕らのために書き下ろしてくれた「金管五重奏のための演奏会用小品」は、ジャズの要素とクラシックの要素が両方含まれていて、お互いの良さを引き出せる作品です。次世代のジャズ・ピアニストとして注目されている壺阪健登さんにも参加いただき、「ラプソディー・インブルー」も楽しみにしてください。

出演者からのメッセージ—長岡公演へよせて—

ARK BRASS (アーク・ブラス)

今回、ARK BRASSとしては、初めての長岡公演です。皆さんに金管の楽しさを伝えられたらいいなと思っています。それぞれのメンバーの音の違い、そして、合わせたときの統一感など、金管アンサンプルの魅力を感じてほしいです。またライブでしか味わえない音楽の会話や掛け合いを楽しんでいただきたいと思います。演奏会終わりに、「素晴らしかったねー」というより「楽しかった!」と言って帰ってもらえるような楽しいステージにしたいと思っています。会場でお会いできるのを楽しみにしています。お待ちしております。



©Yuji Hori

PROFILE

トランペットの佐藤友紀、ホルンの福川伸陽、トロンボーン青木昂、テューバの次田心平というスーパープレイヤーがコアメンバーとなり、PJBEの基本スタイルである5人編成と10人編成を中心に、楽曲によって日本を代表する名手たちが加わる柔軟な編成で金管アンサンプルの多様な魅力を表現していく。都市型音楽祭ARK Hills Music Weekのオープニングを飾る(サントリーホールARKクラシックス)のレジデント・ブラスアンサンブルとして2021年に結成。アルバム「イージー・ウィナーズ〜PJBEへのオマージュ」、『展覧会の絵』をエイベックス・クラシックスよりリリース。2025年には、『BAROQUE』のリリースが予定されている。https://avex.jp/arkbrass/

松井秀太郎 スペシャルゲスト (トランペット)

ARK BRASSのみなさんの演奏を初めて聴いた時、圧倒的な技術力とサウンドはもちろん、こんなに楽しいアンサンブルコンサートがあるんだと驚いたことを覚えています。そんな素晴らしい皆さんとの演奏の機会をいただき、金管楽器の魅力テーマに五重奏曲を作りました。今回はその曲に加え、ラプソディーインブルーも新たにアレンジします。ピアニストは自分のジャズバンドやデュオコンサートでもお世話になっている素晴らしいピアニスト壺阪健登さん! どちらの曲もジャンルを飛び越えてブラス、そして音楽の魅力をお楽しみいただけたらと思います! 今から自分自身とても楽しみです。



©Tadayuki Minamoto

今年一月に小曾根真さん率いるNo Name Horsesで長岡にお邪魔しましたが、素敵な街に違う形で戻ってくることができてとても嬉しいです。会場でお会いできることを楽しみにしております!

PROFILE

1999年東京都国立市出身。国立音楽大学ジャズ専修首席卒業。2023年「STEPS OF THE BLUE」でメジャー・デビュー。24年にはセカンド・アルバム「DANSE MACABRE」をリリースし、全国ツアーを敢行。自身の公演の他に、小曾根真No Name Horsesへの参加やアーティストサポート、スタジオミュージシャンとしても幅広く活動。また、オーケストラとクラシックの協奏曲の共演を重ねるなど、ジャンルを超えたマルチな才能に注目を集めている。

ARK BRASS スター・ウォーズ組曲
~ARK BRASS with 松井秀太郎

9/18 木 開演 19:00 長岡リリックホール・コンサートホール

全席指定 S席5,500円 A席4,500円 B席3,500円

- 【出演】 ARK BRASS/佐藤友紀(1st Tp)、安藤友樹(2nd Tp)、福川伸陽(Hr)、青木昂(Tb)、次田心平(Tu)
- 【曲目】 ◎久石譲(石川亮太編):《天空の城ラピュタ》BRASS組曲より
◎松井秀太郎:金管五重奏のための演奏会用小品
◎ガーシュウィン(松井秀太郎編):ラプソディー・イン・ブルー [ソロトランペット、ピアノと金管五重奏のための編曲版]
◎ジョン・ウィリアムズ(石川亮太編):金管五重奏のための《スター・ウォーズ》組曲より ほか

松井秀太郎(Tp)、壺阪健登(Pf)



令和7年度 文化庁 劇場・音楽堂等における 子供舞台芸術鑑賞体験支援事業

中学生・高校生対象の無料ご招待をいたします。 詳細はこちら



※1951年にイギリスのトランペッターフィリップ・ジョーンズによって結成された金管楽器による室内アンサンブル団体。

春風亭

スベキヤルトニタツト

長岡市出身

落語家

瀧川鯉津



改め

鯉

づむ

む

50歳で真打昇進

おかげさまで今年5月に真打昇進いたしました。師匠・鯉昇のような「また観たい！」と思っただけの嘶家を目指し、これからも精進いたします。

また、これまでは古典落語をインプットしてきたのですが、新作落語をどんどん作ってアウトプットしていきたいです。そもそも古典落語

はうまい方がたくさんいらっしゃいますし、僕は声が高いので、声質を活かしたオモシロ系の嘶力を入れようと考えています。

そして、もっと地元新潟で仕事をしたいです！歳を取ると不思議なもので地元に戻りたくなるものなんです。公演はもちろんです。子どもたちともふれあう機会を増やし、落語の文化を長岡に広めたいです。みんなが笑うということはとてもいいものです。長岡のみなさんが笑顔であることは必ず明るい未来につながりますよね。

「鯉づむ師匠」直伝

落語の楽しみ方

『ゆる〜くお楽しみください』

落語はそこらへんにいそうな名もなき人のお話。お酒を飲んじゃダメって言われてるのに飲んじゃう、痩せるって言いつつながらお菓子を食べちゃう…そんなダメなところがある人が主人公。そして、ダメな部分を肯定してくれるのが落語なんです！このご時世、心が疲れている方にはお勧めです。ちょうど良い息抜きの場になりますよ。

ときどき古い言葉の意味が分からないこともあるかもしれませんが聞き流してください。ストーリーが上手くてきているのでなんとなく理解できます。しかし、落語は頭の中で場面を想像しながら聞くので疲れることもあります。なので、



つまらない話の時は寝てください。流し聞きでいいんです。不眠症の方には睡眠導入にも役立ちます(笑)。

また、落語は寄席で演じられてきました。寄席＝落語と思いがちですが、講談、浪曲、手品、曲芸などバラエティーに富んだものを上演しています。とはいえ、やはり中心となっているのは落語。「前座」のすぐ次に「二ツ目」が出ます。その後、色物を挟みつつ「真打」が交互に出て、最後にトリの「真打」が締めます。こんな流れを昼夜二部制で一日中ゆる〜く楽しむのが寄席なんです。ですから、服装もスウェットで来てもらって結構(笑)。気張らず足をお運びください。

「鯉づむ師匠」はこんな人

最近気になる長岡のこと

長岡の方は真面目。公演のときはいつも真剣に耳を傾けてくださる。しかし、常在戦場の精神なんでしょうか…、長岡の男の人はなかなか笑ってくださらない。これは、同じく長岡出身の先輩、入船亭扇辰師匠もおっしゃってます(笑)。

地元メシ大好き

カレーと麺類。カレーは長岡市立劇場のお隣、ROROさんの「豆腐カレー」がお気に入り。ラーメンはお馴染み、青島ラーメン(製麺部)が好き。ちなみに、へぎそばはカラシで食べる派です。



プロレス大好き

出囃子は「サンライズ(スタン・ハンセン)」です。不思議なことに、嘶家の方でプロレス好きの方がたくさんいらっしゃるんです。笑点メンバーの春風亭一之輔さんとよく一緒にプロレス観戦させてもらってます。プロレス好きが高じて「落語 vs プロレス」というイベントをプロレス好きな芸人たちでやっているほど！ニューヨークまで行って観る程好きなので、アメリカは無理でもいずれは「鯉づむと行く後楽園ホールツアー」とかやってみたいです(笑)。



プロフィール

長岡市出身。新潟県立長岡高等学校、桐朋学園大学短期大学部芸術科演劇専攻を卒業。2010年、36才で瀧川鯉昇に入門。前座となり「鯉津」。2014年11月、二ツ目に昇進した。2025年5月1日に真打に昇進し、「春風亭 鯉づむ(りづむ)」に改名。FMながおか「春風亭 鯉づむ(りづむ)のらくごられ〜」出演。

公演情報

先輩落語家のみなさんと出演します！会場でお待ちしております！

秋の特別落語会 in 長岡

10/11(土) 開演 14:00
長岡市立劇場

全席指定 4,500円

リリックm.c. 先行発売 8/7(金) 一般発売8/8(土)



長岡市出身の落語家、瀧川鯉津さんが満を持して真打昇進し、「春風亭鯉づむ」を襲名しました。鯉づむ師匠に、真打となった現在の想いや落語の魅力について語っていただきました。

36歳で一念発起

お笑いの仕事を目指して上京し、短大の演劇科で学び、しばらくお笑いの道を探っていたのですがなかなか上手くいかず、シフトチェンジをして放送作家を志しました。そこで、笑点の作家をされている佐藤かんじさんに直談判で弟子入りし、10年近く放送作家をしておりました。BS笑点という番組に携わっていたとき、スタッフも大爆笑するほど面白い、瀧川鯉昇師匠を見ていて「やっぱり自分も人前に出たい！」と日々強く思うようになりました。そこから一念発起！本番終わりの師匠を待ち伏せて履歴書を渡しました。開口一番が「36歳



か…。しかし、37歳で入門した兄弟子を知っていたので、僕の方が1歳若いじゃないですか！」と初対面の師匠に桶突き懇願しました(笑)。普通は弟子入りするのに、何回も頭を下げに行くのですが、僕の場合はたったの2回でOKいただきました。色んなタイミングが上手く重なったんです。その一つが、師匠の知人が長岡で働いていて僕が師匠の門戸をたいたいた1週間後に長岡花火を観に行く予定だったという偶然。そんなこんなで、地元長岡にはとても恩を感じています。

初舞台で言われた「いっぱい恥をかいてこい」

初舞台は新宿末廣亭でした。この日のために毎日何時間も必死に練習をし、「本番で絶対間違えてはいけない」というプレッシャーでガチガチになっていました。しかし、お席亭(せきでい)にご挨拶にいった際「いっぱい恥をかいてこい」という言葉をいただき、その一言で「間違えてもいいんだ」と一気に肩の力が抜けました。リラックスできたおかげで初舞台をノーミスで終えることができました。この厳しくも温かいこの言葉は現在の自分の根になっています。最近、小中学校で落語のワークショップをやらせてもらっています。落語で代表的な、扇子を著に見立てて「ズズズ」と音を立てる「蕎麦をすすする」所作体験は必ず盛り上がります。また、ちょっとした小嘶の発表会をすることもあり。伝統芸能を鑑賞するだけでなく、体験してもらうことで、人前で話す度胸や表現力も育てています。子どもたちには「たくさん失敗していいんだよ」と伝えています。

※「お席亭」：寄席の経営者を指す言葉です。寄席の主催者や、席の亭主とも呼ばれます。